元旦礼拝説教（2022 年 1 月 1 日）

説教者：中村信哉

なすことすべてが栄える人

詩篇 1 篇 1-6 節

はじめに

毎年、年の初めは、皆さんに「デボーション」をすることを勧めています。そこで今日は、詩篇 1 篇から「デボーション」について学びたいと思います。

1. 恵みの手段による信仰の成長

「デボーション」とは、英語の「献身」を意味する言葉ですが、キリスト教会では「毎日聖書を読み、祈り、神様と交わること」を意味するようになりました。

なぜデボーションが信仰生活に必要なのでしょうか。イエス様は、私たちクリスチャンを養い育てるために、三つのものを与えてくださいました。それは、①御言葉、②聖礼典（洗礼、聖餐）、③祈りです。イエス様は、御言葉、聖礼典（洗礼・聖餐）、祈りの三つを通して私たちを祝福し、恵みを与えようとしておられます。その意味で、この三つは「恵みの手段」と呼ばれます。

私たちがもしイエス様からの祝福がほしい、恵みがほしい、クリスチャンとして成長したいと願うなら、この恵みの手段を用いなければなりません。つまり聖書を読み、祈り、洗礼を受け、聖餐に与らなければなりません。それらを用いないならば、イエス様からの祝福や恵みや信仰の成長を期待すべきではありません。御言葉、祈り、聖礼典は、イエス様からの祝福と恵みを受け取る通路です。そこからイエス様の祝福と恵みが流れてくるのです。ですからそれらを無視した形での救いや信仰の成長や祝福は、通常あり得ません。私たちがもし救われたい、成長したい、祝福された人生を歩みたい、そう願うなら、聖書を読み、祈り、洗礼を受け、聖餐に与からなければなりません。

2. 幸いな人とは？

詩篇 1 篇は、イエス様の山上の説教と同じように**「幸いなことよ」**という言葉から始まります。つまり「どういう人が幸せか」ということです。ここには、**「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かなかった人。主のおしえを喜びとし、昼も夜も、その教えを口ずさむ人。その人は、流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える」**とあります。

詩篇 1 篇にある「幸せな人」とは、御言葉を喜びとして、一日中口ずさんでいる人です。そういう人は、御言葉を人生の指針として歩んでいるので、この世の価値観に従って歩みません。そしてその結果、「そのなすことすべてが栄える」のです。

（1）御言葉を口ずさむ

私たちは今、印刷の技術が発達した時代に生きているので、一人ひとりが聖書を持ち、いつでも読むことができます。しかし当時の人々は、一人ひとりが聖書を持つことができませんから、口ずさみながら聖書の御言葉を覚えたのです。御言葉を覚えて、体の中に染み込ませていたのです。

体の中に染み込んだ御言葉は、ふとした瞬間に生きてきます。突然の試練に遭った時、また人生の選択を迫られた時、誰かの相談を受けた時など、そういう時に体に染み込んだ御言葉がふと思い出されるのです。

私たちは、聖書を読むことが目的ではありません。御言葉を体の中に染み込ませ、御言葉に生かされていくが大切なのです。御言葉に従い、御言葉のうちに慰めと希望を持ち、人生の選択を迫られた時には、この世の価値観ではなく、御言葉に導かれて選択していくことが大切なのです。

私たちは、聖書は読んでいるけれども、ここぞという時にはこの世の価値観に従ってしまうということはないでしょうか。私たちは、御言葉を生活のあらゆる問題に適用していかなければなりません。この世界に、神様が支配されていない領域は 1 ミリもありません。私たちの生活の全領域は神様のものです。ですから私たちは、御言葉を体の中に染み込ませ、生活の全領域に、そしてあらゆる問題に適用していかなければなりません。

（2）なすことすべてが栄える

詩篇 1 篇にある「幸せな人」とは、「そのなすことすべてが栄える」人です。ここの「栄える」という言葉は、「成功する」とも訳される言葉です。旧約聖書の中に、「なすことすべてが成功した」人がいます。それは、「ヨセフ」です。創世記 39：2-3 にはこうあります。**「主がヨセフとともにおられたので、彼は成功する者となり、そのエジプト人の主人の家に住んだ。彼の主人は、主が彼とともにおられ、主が彼のすることすべてを彼に成功させてくださるのを見た」**。ヨセフは、なすことすべてが成功したのです。なぜ彼は成功することができたのでしょうか？それは、「主が彼とともにおられた」からです。

イエス様が共にいてくださる時、私たちはなすことすべてにおいて栄えることができます。イエス様もこう言われました。**「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです」（ヨハネ 15:5）**。イエス様が共にいてくださる時、私たちは人生の実を結びます。

しかしイエス様と共に歩む、イエス様が共にいてくださるとは、具体的にどういうことでしょうか？詩篇 1 篇は、「主のおしえを喜びとし、昼も夜も、そのおしえを口ずさむ人」は、なすことすべてが栄えるとあり、ヨセフは、「主がともにおられた」から、なすことすべてが栄えたとありました。これらのことから考えると、イエス様と共に歩むと

は、「御言葉を喜びとし、御言葉を昼も夜も口ずさむ」ことだと言えるのではないかと思います。つまりイエス様と共に歩むとは、御言葉と共に歩むことであり、御言葉を体の中に染み込ませて歩むということではないでしょうか。

使徒ヨハネは、イエス様についてこのように言いました。**「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった」(ヨハネ 1:1)**。イエス様は言葉である方であり、言葉が人となられた方です。イエス様と共に歩むとは、決して抽象的なことではありません。イエス様と共に歩むということは、御言葉と共に歩むということです。イエス様は、御言葉のうちに御臨在されるのです。

私たちは、御言葉を読まずに、また御言葉を聞かずに、また御言葉を体の中に染み込ませずに、イエス様が共におられることを期待してはなりません。イエス様は、御言葉と共に御臨在されるのですから、私たちがもしイエス様に共にいていただきたい、イエス様と共に歩みたいと願うなら、御言葉を読み、御言葉を聞き、御言葉を体の中に染み込ませなければなりません。それでこそ私たちは、なすことすべてにおいて栄える実を結ぶ人生を歩むことができるのです。

(3)時が来ると実を結ぶ

しかし、私たちの人生が実を結び、なすことすべてにおいて栄えるのには、時間がかかります。3節には「時が来ると実を結び」とあります。すぐに実を結ぶのではなく、時が来るまで待たなければなりません。御言葉を体の中に染み込ませて、なすことすべてにおいて栄える人は、「流れのほとりに植えられた木」に例えられています。パレスチナは、川らしい川はヨルダン川しかないと言われます。そこで木に葉を茂らせ、実を結ばせるためには、川のほとりに移動させて植えなければなりません。そうすると、たっぷりと水を吸い上げ、葉を茂らせ、実を結ぶことができるのです。

しかし乾燥した所から川のほとりに移動させられた木が、枝の先まで水分を吸収し、十分に栄養を得るには時間がかかります。また実を結んでも、季節によっては実を結んだり、結ばなかったりすることもあります。

私たちが御言葉を毎日読み、毎週の礼拝で御言葉を聞く生活も、すぐに実を結ぶわけではないかもしれません。体の中に染み込んでいくまで、生活の全領域に、あらゆる問題に御言葉を適用させていくには時間がかかるかもしれません。しかし忍耐してそれを続けていけば、必ず実を結ぶようになるのです。なすことすべてにおいて栄えるようになるのです。もちろん人生の季節によっては、実を結ぶ時もあればそうでない時もあるかもしれません。しかし地道に、御言葉を読み続け、御言葉を聞き続けていけば、必ず実を結ぶ時が来るのです。人生の大きな試練の時には確かな慰めや希望を与えられ、人生の大きな選択をする時には確かな道を選び取ることができるのです。そして人生の最後まで信仰を持ち続けることができるのです。

おわりに

詩篇 1 篇は、イエス様の山上の説教と同じように「幸いなことよ」という言葉から始まります。イエス様の山上の説教は、「心の貧しい者」「悲しむ者」「義のために迫害されている者」は「幸いです」と言われました。それらはどれも、この世の価値観では不幸な人たちでした。しかし天の御国においては、それらの価値観は逆転する、イエス様を信じる者は、心が貧しくても、悲しんでいても、迫害されていても、天の御国の希望によって幸せに生きることができると言われたのです。

詩篇 1 篇も、イエス様の山上の説教と同じように、逆転の発想があるのだと思います。エレミヤ書 12：1 には、**「なぜ、悪者の道が栄え、裏切りを働く者が、みな安らかなのですか」**とあります。詩篇 1 篇には、正しい者が栄えるとありますが、目に見える現実は、悪者が栄え、悪者が幸せそうに生きているのです。このような不条理な現実の中で、詩篇 1 篇は、悪者の道に従わずに、御言葉を体に染み込ませて生きなさい、そうすれば必ず実を結び、なすことすべてにおいて栄えるようになるから、と言っているのです。

つまりこの世の価値観に従って生きたほうが人生に成功するように見える、御言葉に従って生きることが無力に思える、そのような現実の中でも、地道に忍耐して、御言葉を読み続け、御言葉を聞き続け、御言葉を体に染み込ませていくなら、時間はかかるかもしれないけれど、必ず実を結ぶ時が来る、必ずすべてにおいて栄える時が来る、だからそれを信じて、この世の価値観に流されずに諦めずに歩んでほしい、そういう神様の願いがこの詩篇 1 篇には込められているのだと思います。

詩篇 37：7 には、このようにあります。**「主の前に静まり、耐え忍んで待て。その道が栄えている者や悪意を遂げようとする者に腹を立てるな」**。またⅠペテロ 1：24 には、**「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは永遠に立つ」**。

私たちはなぜ「デボーション」をする必要があるのでしょうか？それは、①イエス様は御言葉を通して私たちに恵みを与え、祝福を与えようとしておられるからです。御言葉は、イエス様からの祝福と恵みを受け取る通路です。②イエス様は、御言葉のうちに御臨在されるからです。イエス様と共に歩むためには、御言葉と共に歩まなければなりません。③御言葉と共に歩む人生は、やがて実を結び、なすことすべてにおいて栄える人生となるからです。たとえ目に見える現実は、この世の価値観のほうが栄えるように見えても、忍耐して御言葉を体に染み込ませて待ち続けていくなら、必ず実を結ぶ時が来るのです。御言葉が生きる時が来るのです。私たちはそのことを信じて、毎日御言葉と共に歩んでいきましょう。

天におられる主なる神様。

あなたは聖霊を通して、聖書の御言葉を私たちに与えてくださいました。イエス様は御言葉のうちに御臨在されます。どうか私たちが、毎日御言葉を読み、毎週御言葉を聞き、体の中に御言葉を染み込ませることができますように。御言葉を生活の全領域に適用すること

ができますように。そして、御言葉を通してイエス様と共に歩むことができますように。

目に見える現実がたとえ、この世の価値観に従ったほうが賢く、栄えるように見えても、御言葉を忍耐をもって読み続け、やがて実を結ぶ時を信じて、やがてなすことすべてにおいて栄えることを信じて、待ち望むことができますように。また御言葉と共に歩む道こそ、永遠のいのちに繋がる道であることを信じさせてください。

この祈りを、御言葉のうちに御臨在されるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。